

令和6年4月22日
報道提供資料
香川県

令和6年全国広報コンクールで、香川県広報誌「みんなの県政 THE かがわ」が2年連続で「総務大臣賞」に選ばれました。

公益社団法人日本広報協会が主催する令和6年全国広報コンクールにおいて、県から応募及び推薦していた作品が入選しました。

特に香川県広報誌「みんなの県政 THE かがわ」は、広報紙 都道府県・政令指定都市部門の最優秀作品として特選に選定され、さらに特選となった団体に贈られる「総務大臣賞」を受賞することとなりました。県広報誌は令和5年に過去最高の「総務大臣賞」を受賞したのに続いての連続受賞となります。

なお、表彰式は、6月21日に秋田県横手市で開催される第61回全国広報広聴研究大会で行われます。

部門	受賞作品	審査結果	市町名
広報紙 (都道府県・政令指定都市部)	「みんなの県政 THE かがわ」 2023年8月号	総務大臣賞 特選	香川県
広報紙 (市部)	「広報かんおんじ」 2023年6月号	入選	観音寺市



受賞した県広報紙（2023年8月号）

< 審査員講評 >

広報紙 都道府県・政令指定都市部

総務大臣賞 香川県「みんなの県政 THE かがわ」(2023年8月号)

“人権の島”としての大島を主役に、情報の共有と未来への展望をもって描いている。

清々しい空気感にあふれる写真に、大きな余白をとって特集「大島」だけがレイアウトされた表紙。島の紹介という導入で、シリアスになりすぎないトーンで大島のアウトラインを自然に伝えている。

その中で紹介されている芸術祭の開催を機に海岸から引き揚げられた解剖台の小さなカラー画像や、それを淡々と説明する短文。これらから決して目を逸らすことを許さない重大な過去を、確かに伝えようという覚悟がここにある。これこそが特集の基本的発信姿勢と思われる。続くインタビューは、ハンセン病患者当事者の話し言葉でリアルに語られ、笑顔の写真と相まって心に迫る記事となっている。

人権は守られるべきものという強いメッセージを県広報紙で語り継いでいく意義は大きい。

特集以外では、連載のものづくり企業の魅力が生き生きと描かれ、読者に多様な価値を与えるコミュニケーションメディアとして機能していることは圧巻と言える。

広報紙 市部

入選 観音寺市「広報かんおんじ」(2023年6月号)

特集では、没後20年の地元出身のハンセン病回復者の作家を通じて、ハンセン病問題(人権問題)を取り上げている。最初の4ページで作家・島比呂志の生涯と活動をまとめ、次に後輩となる高校生たちがその足跡を訪ね、ハンセン病についての理解を深めていくという構成がうまい。作家、支持者、研究者、担当者とうまくかかわりのある人間をつなぐことで記事にふくらみが出た。

ハンセン病について語る場合、(1)病気について正しく知ること、(2)その差別の歴史を知ることの2点が必要となる。社会から偏見と差別をなくすには、まず病気についての正しい知識をもつことであり、それでこそ島比呂志を理解することもできるのだという編集方針がしっかりしている。編集後記には、担当者の素直な思いが綴られている。個人的な事情とともに、担当者の記事に込めた強い思いが明かされている。この点も高く評価したい。

<香川県からの推薦作品>

広報誌

- ・「みんなの県政 THE かがわ」 8月号 香川県
- ・「広報かんおんじ」 6月号 観音寺市
- ・「広報しょうどしま」 7月号 小豆島町

広報写真

- ・一枚写真部：「広報さぬき」 6月号表紙 さぬき市
- ・組み写真部：「広報高松」 6月号2～3ページ 高松市

映像

- ・「たかまつ風土記『江戸時代の上水道プロジェクトに迫る！』」 高松市